

# 歌会始の儀の歌

天皇陛下

をこの旅路に会へる人びとの  
笑顔を見れば心のみぬ

皇后さま

広島をはじめ訪ひて平和への深  
き念ひを吾子は綴れり

秋篠宮さま

早朝の十和田の湖面に映りぬし色  
づき初めし樹々の紅葉

秋篠宮妃紀子さま

鹿兒島に集ふ選手へ子らの送る熱  
きエールに場は和みたり

両陛下の長女愛子さま

幾年の難き時代を乗り越えて和歌  
のことは我に響きぬ

秋篠宮家の次女佳子さま

待ちわびし木々の色づき赤も黄も  
小春日和の風にゆるるる

常陸宮妃華子さま

わが君が退院されて言盤松明るく  
なりぬ心も和む

寛仁親王妃信子さま

病人になりたる我を支へくれし  
まなざし優しき人等に和む

寛仁親王の長女彬子さま

道真公遷られたまふ御祭りに類に  
ふはりと和風の吹く

高円宮妃久子さま

仁和寺のお堂にひびく声明の音  
ふくらみて我をつつみぬ

高円宮家の長女承子さま

突然に和鳴にぎやか秋空を鳥もど  
りて夕暮れを知る

召人 栄原永遠男さん

歌木簡かかげ三十一文字をよむ温  
き響きに座は和みたり

選者 三枝昂之さん

友垣に夕焼け空に咲く花に和へて  
遠く歩みつづける

選者 永田和宏さん

ひと滴の檸檬に紅茶は色変へて  
はるかなり中和滴定曲線

選者 今野寿美さん

琴は琴でもこの国に生まれたる和  
琴といへり六弦と知る

選者 内藤明さん

海山の怒りの風を和らぐる言葉教  
へよ樹の中の鳥

選者 大辻隆弘さん

きたにしの風和くなへに冬の陽は  
わが頬を刷くいたくやさしく

入選者 (年齢順)

栃木県 古橋正好さん(88)

己が手で漉きたる和紙の証書手に  
六年生は卒業となる

米国カリフォルニア州 川崎ハル  
コさん(81)

かの日々に移り来し人等耕しし  
大和と呼ぶ里アマンドの花

神奈川県 白杵喜行さん(75)

呼びに来てくれたる人を追ひ越し  
て電話に急ぎし昭和の夜道

香川県 岩倉由枝さん(72)

和菓子屋をなりはひととして五十年  
寒紅梅に蕊をさす朝

埼玉県 高橋祐子さん(71)

和だんすは母のぬくもり大島に袖  
をとせば晩年に似る

福岡県 川添さとみさん(61)

風琴の和音のやうに柔らかに多言  
語混じりあへる教室

千葉県 小野文香さん(61)

見逃した小さな小さな違和感の粒  
で自分が作られていく

石川県 宮村瑞穂さん(32)

花散里が一番好きと笑みし友和服  
の似合ふ母となりぬる

京都府 小池弘実さん(21)

目を瞑り一分間を折るとき皆が小  
さき平和像なり

新潟県 神田日陽里さん(17)

「それいいね」付和雷同の私でも  
この恋だけは自己主張する